

短 報

東海北陸自動車道（富山県南砺市）で交通事故死したニホンツキノワグマについて*

南部久男¹⁾・後藤優介²⁾

¹⁾ 富山市科学文化センター, 〒939-8084 富山県富山市西中野町1-8-31. ²⁾ 立山カルデラ砂防博物館, 〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂 68

Note on a roadkill of Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*) from Nanto City, Toyama, Central Japan, in 2006.

¹⁾Hisao Nambu and ²⁾Yusuke Goto

¹⁾Toyama Science Museum; 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan. ²⁾Tateyama Caldera Sabo Museum; 68, Bunazaka, Ashikuraji, Tateyama-machi, Nakaniikawa-gun, Toyama 930-405, Japan.

富山県のニホンツキノワグマの形態や食性に関する報告は少なく、大量出沒した2004年の捕獲調書（富山クマ緊急調査グループ他、2005）や後藤他（2006）等に散見される程度である。今回、交通事故死したニホンツキノワグマを観察する機会があり、計測値や胃内容物等についての情報が得られたので報告する。

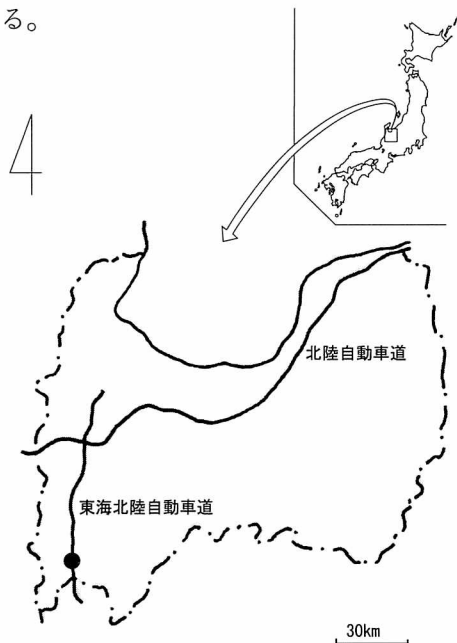


図1. 交通事故死の地点

I 交通事故死の状況

2006年9月2日7時20分頃、富山県南砺市田下（旧上平村）の東海北陸自動車道上り線で、ニホンツキノワグマと乗用車と衝突し死亡した（9月3日付け北日本新聞社朝刊による（図1、図2）。死亡時には仔グマがいた（猟友会会員からの聞き取りによる）。

II 観察結果

1. 外部計測値

外部計測は綱のメジャーを用い、体重は人用の体重計を用いた。

性別：メス（図2）

体重：49kg

全長：1290mm

体高：590mm

肩高：700mm

尾長：40mm

耳介長：（左、内側）85mm, （左、外側）100mm, （幅）90mm

前肢長（左）：375mm

左前足掌球：長さ, 95mm; 幅, 90mm

左前足掌長：ツメなし, 145mm; ツメあり, 175mm

左後足長：ツメなし, 180mm; ツメあり, 202mm

左後掌長：ツメなし, 155mm; ツメあり, 177mm



図2. ツキノワグマ交通事故死体（上、背中側；下、腹側）

* 富山市科学文化センター研究業績第337号

左足底球：長さ，110mm；幅，75mm.
腹側)

2. 内蔵

胃：上部の太い部分の外周；39cm
くびれ部分の外周；26cm
下部の外周；32cm
長さ（中央部）；40cm
腸の長さ；12.8m
腸内容物重量；1015g
脂肪厚み（骨盤上の背側）；18mm

3. 胃内容物分析

5, 2, 1mm メッシュの金網を用いて水洗し，それぞれの目の金網に残った内容物を，バットに広げ，目視でそれぞれの内容物の割合を求めた。植物は割合，昆虫類は個体数とした。+はわずかに認められた場合を示す。植物については，同定可能と思われる葉を広げ，さくよう標本とした。

1) 内容物の割合

① 胃上部

内容物重量は1720gで，その内約200gを分析に用いた（図3）。

広葉草本（葉部）70.5%，オニグルミ核皮（堅い殻の部分）25%，同種子（白い中身の部分）1.5%，同種皮+，アリ類16個体，アリ類卵30個，コガネムシ類幼虫1個体。



図3 胃上部の内容物（左の破片はオニグルミ核皮で，中央の塊は植物の葉）。

② 胃下部

内容物重量は410gで，その内約95gを分析に用いた。

広葉草本（葉部）47%，オニグルミ核皮39.25%，

同種子9.75%，アリ類18個体，アリ類サナギ1個。

2) 同定できた胃内容物

① 植物

- ・ツリフネソウの葉と花序（同定できたものだけであるが，胃に入っていた広葉草本の大部分がツリフネソウと思われる）。
- ・オニグルミの実

② 昆虫

- ・ハヤシクロヤマアリの成虫
- ・トビイロケアリの成虫
- ・アリ類（上記のアリ類と思われる）のサナギ
- ・コガネムシ類幼虫1点

4. 交通事故が原因と思われる所見

骨折の判断は触診による。

- ・左肋骨折れる
- ・右肩胛骨粉碎
- ・右大腿骨骨折
- ・胸腔内に血液貯留

Ⅲ 富山県におけるツキノワグマの交通事故例

富山県内の一般道での小型，中型哺乳類の車との衝突による死亡（轢死）例には，タヌキ，イタチ，ハクビシン，キツネ，ニホンザル，テン，リス，ムササビ，ドブネズミ，ノウサギがあり，タヌキ，イタチ，ハクビシンが比較的多い（村井他，2002，2003，2004，2005）。高速道路でも小型，中型哺乳類の死亡事故は発生していると思われるが事例報告はみられない。

大型哺乳類の交通事故は，ツキノワグマとカモシカが知られる（村井他，2003，2005；富山クマ緊急調査グループ他，2005）。ツキノワグマでは，一般道で死亡にいたらない車との衝突事例が次の通り何例か知られる。

—死亡にいたらない事例—

- ・2002年9月29日，砺波市正権寺，メス，65kg；村井他（2003）。
- ・2004年9月17日，魚津市のスーパー農道；村井他（2005）
- ・2004年9月22日，宇奈月町；村井他（2005）

—死亡例—

- ・2004年9月13日，魚津市のスーパー農道，仔グマ；村井他（2005）
- ・2004年10月16日21時，上市町スパー農道沿い；富山クマ緊急調査グループ他（2005）

高速自動車道では、ツキノワグマとカモシカの死亡事例がある（村井他，2005；富山クマ緊急調査グループ他，2005）。ツキノワグマの死亡事例を示す。

- ・2004年9月29日，魚津市天神野新の北陸自動車道；富山クマ緊急調査グループ他（2005）
- ・2004年9月30日，魚津市の北陸自動車道，体長1m，体重30～40kg；村井他（2005）
- ・2004年10月29日，南砺市人母の北陸自動車道；富山クマ緊急調査グループ他（2005）
- ・2004年11月13日，小矢部市の北陸自動車道，メス，村井他（2005）
- ・2001年10月15日午後11時50分頃，黒部市山田の北陸自動車道；科学文化センターで剥製，骨格を保管。

上述の例や今回の事例から，ツキノワグマの成獣は一般道では，車と衝突しても即死の場合は少ないと思われる，仔グマは死亡する場合があると言える。高速道路では，多くの場合は致命傷を負い即死する事例が多いと言える。

謝 辞

調査にご協力いただきました南砺市猟友会上平支部，富山県自然保護課，安藤信貴氏，有本勲氏，胃内容物を同定していただきました，根来尚氏，大田道人氏，坂井奈緒子氏，作図をしていただきました志波友子氏に厚く御礼申し上げます。

文 献

- 後藤優介，有本勲，肴倉孝明，古林賢恒，2006. 立山カルデラおよび周辺域におけるツキノワグマの食性.立山カルデラ砂防博物館研究紀要（7）：3-13.
- 村井仁志，白石俊明，間宮寿頼，南部久男，岡圭一，西岡満，神保美和子，森大輔，2003. 富山県における哺乳類の記録（2002年）. 富山の生物（42）：27-38.
- 村井仁志，西岡満，白石俊明，神保美和子，森大輔，南部久男，岡圭一，間宮寿頼，2004. 富山県における哺乳類の記録（2003年）. 富山の生物（43）：1-8.
- 村井仁志，間宮寿頼，南部久男，岡圭一，西岡満，白石俊明，三浦沙耶子，細川美和子，森大輔，2005. 富山県における哺乳類の記録（2004年）. 富山の生物（44）：63-72.
- 村井仁志，南部久男，森大輔，内呂由美子，西岡満，間宮寿頼，細川美和子，見浦沙耶子，岡圭一，白石俊明，2006. 富山県における哺乳類の記録（2005年）. 富山の生物（45）：63-72.
- 富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク（JBN），2005. 富山県における2004年のツキノワグマの出没状況調査報告書.pp.112+CD.